私の行きつけ

新・赤ちょうちん

11

珍珍亭

武蔵境駅 徒歩10分

【三鷹武蔵野・造園・我妻泰彦記】JR武蔵境駅の北側、亜細亜大学付近の名物といえば、珍珍亭の「油そば」。1957年創業のこの店は、昨今ブームとなっている〝油そば〟発祥の店と言われている老舗である。

歴史の深さを感じさせる外観

かみ応えあるチャーシュー
油そばは最高の一品

ちょいと濃いめの味付けに、こしのきいた中太めん、かみごたえ充分のチャーシュー。これに昔ながらのナルトにメンマというシンプルな構成ながら、空腹の職人、近所の大学生、全国のくいしん坊のお腹を満たすには最高の一品である。

「油そば」のほかにも、「ラーメン」や「チャーハン」、ネギ盛やワンタン盛など、ビールのつまみになりそうなサイドメニューもあり。

以上、地元に45年住んでいる一職人のひとり言でした。

《メニュー》

油そば　並　650円
　　大　750円
　　特大　850円
チャーシュー油そば　並　900円
　　大　1000円
　　特大　1100円
ラーメン　並　650円
　　大　750円
チャーハン　並　800円
　　大　900円

【営業時間】11時～16時（麺がなくなり次第、閉店）
【定休日】日曜・祝日
【住所】武蔵野市境5－17－21
【電話】0422－51－2041

忘れえぬこと

自転車保険のおかげで
ハルの過ち償えた

塗装　村越 義一

私はあまり争い事が好きではないので、ケンカなどで人にケガをさせた事は一度もありません。これは、私自身ではなく、家で飼育している愛犬「ハル」が、隣のアパートに住んでいる人にケガをさせてしまった話です。

事件当日、私は仕事で自宅にはいませんでした。その場には母がいて、入り口の門を挟む形で、外にいる相手とおしゃべりしていました。相手も犬を飼っていたことがあるので、しゃがんでハルの相手をしていました。そのうちに門が少し開いてしまったのです。

その隙間からハルが飛び出し、中腰の相手に飛びかかりました。ハルは遊ぶつもりだったのでしょうが、34キロの大型犬です。立ち上がった瞬間か、上に乗っかった時か、相手の顔にハルの歯が当たったようなのです。

母が付き添って病院へ行きましたが、傷口が思ったより深く、細胞が壊死している部分を取り除かないと傷は完全に治らないと言われたそうです。可愛いペットだとナメていた所もあったかも知れませんが、「犬は獣なんだ」と思い知らされた瞬間でした。

一番気になる事は、ケガをさせた方への補償ですよね。私は東京土建の自転車保険に入っていてこの保険は飼い犬が人にケガをさせた場合にも対応しています。

今では手術も無事終わり、順調に回復に向かっています。まさかこのような事が自分の身に起こるとは思っておらず、東京土建の自転車保険に入っていて本当に良かったと思っています。（葛飾）

さくらさま

趣味が高じて

上沼恵美子に酷評されるなど、お笑いではなかなか日の目を見ることがなかったマヂカルラブリー・野田クリスタル。しかし、得意のプログラミングを生かし、『ブロックくずして』など〝野田ゲー〟と称する数々の自作アプリを発表して高い評価を集めていた。

先月放送された「R－1ぐらんぷり2020」では、自作アプリをネタにして見事ピン芸人№1に輝いた。

「M－1グランプリ2017」では審査員を務めた

詰将棋

持駒　角　歩

	6	5	4	3	2	1	
一					桂	香	
二				飛			
三					玉		
四					歩	歩	
五					銀		
六						歩	

チョット一服（1011）

世田谷区では新型コロナ対策による休校で給食が無くなって、影響が出ている家庭があることから、経済的な理由などで昼食を取ることが出来ない小中学生に1食100円の弁当の配達を行なっている。大阪市は2021年度から小中学校の給食を無償化する予定だったが、今年の4月からへ前倒しするようだ。

学校給食は単に食事を提供することではなく、食育の一環として位置づけられる教育活動だ。憲法26条で義務教育は無償とすると定めている。コロナ対策で給食の重要性が再確認されたのではないか。給食無償化は自治体任せでなく国として支援すべきだ。

本ほん

ある日突然に 失語症との闘い
全国失語症友の会連合会東京支部 編

当たり前を取り戻す仲間たちの奮闘

【本部・高倉一歩記】失語症という病気を知っていますか。私の父は約18年前に脳内出血で倒れて以来、失語症を患っていました。先日その父が亡くなりましたが、葬儀で失語症友の会の皆さんに多数参列していただきました。話を伺い、私の失語症への理解の無さを痛感したのと同時に父に同じハンディ、悩みを共有する仲間がたくさんいたことを知り少し安心しました。

失語症は昔からある脳梗塞の一後遺症で、人間誰でも「ある日突然に」かかる脳疾患によって発症しますが、外部にひた隠す風潮が残っており、家に引きこもって外出さえできない患者も多いといいます。失語症は話す、聞く、読む、書くことが困難になります。言葉が社会で生きていくためにどんなに大事であるか。昨日まで当たり前にできていたことが病気を境にできなくなる。

父が発症したのは定年前の58歳でした。どんなに悔しかっただろうか。

しかし適切なリハビリによって一定の機能を回復し障害を軽くすることもできます。父も母とともに懸命にリハビリに取り組み、簡単な言葉やカラオケなどできるようになるまでに回復しました。この本に寄稿してくださった患者、ご家族の皆さんは一旦絶望を感じながらも、失語症友の会という場所で同じハンディ、悩みを共有できる仲間と出会い、前向きにリハビリに取り組んでいます。

この本を読んで失語症の理解者が一人でも増え、見えない障害である故に起こる誤解や偏見が少しでも無くなれば幸いです。

（全国失語症友の会連合会東京支部・1000円＋税）